

令和 6 年度社会教育委員の会 第 1 回意見交換会 記録

○日 時 令和6年12月14日 13時～15時
 ○場 所 明道公民館図書室
 ○出席者(委員) 卜蔵久子, 安部 悟, 加藤洋子, 徳永哲郎, 星野章作
 (市教委生涯学習課) 新見圭輔 (県教委社会教育課) 戸板正哉 ※順不同・敬称略

1 開会挨拶(卜蔵)

2 自己紹介(各自情報提供含む)

① 安部 悟委員

米子市小学校長会代表。米子市は県内で最後にCSを導入した。CSは地域が学校を支えるだけでなく学校教育に参画してもらう取り組みで、これまでの地域による学校支援が基盤になっている。自分の勤務している地域では「だれが行動するか」が課題。新たなアイデアが出てなかなか動き出せない。でもCSのおかげで地域が学校に入りやすくなった。

もう一つの立場が米子市子ども会連合会長。コロナ禍でさまざまな活動が止まった。子ども会がなくなるのではと心配していたが、復活してきている。地区子ども会が解散した所がいくつかあるが、自治会単位あるいは有志により行われている活動がある。それら全部を集約することは難しい。

【意見交換】

(卜蔵) 公民館祭で子ども会活動の様子を掲示で紹介しておられる所があった。CSでなくても地域で子どもたちを支えて下さっていると感じた。

② 加藤洋子委員

米子市文化協議会代表。2回の会議と鳥取県の振興大会、徳島での中四国大会に参加。委員として重責と共に戸惑いを感じている。男女共同参画の面で文化協議会は関わりが多かった。県大会で講師が使われた「家内」という言葉が気になった。童謡「雨降り」の『きみきみ このかさ さしたまえ』という歌詞も、時代背景を考えても「上から目線」だと思った。県教委の「社会教育委員の手引き」で取り上げられている内容にも改善が必要ではないかと感じた。

社会教育委員として、若い人々をどう巻き込んでいくかを考えたい。また市の方向について、社会教育委員の会で各担当の報告を聞くような形でなく、もっと連携して進めてほしい。徳島の大会で報告された山口市は委員主導で会が進められていると感じた。行政の在り方を考えてほしい。

文化協議会は先日、市長・教育長と話す機会があり、よい機会だったと思う。「文化を育むまちは人を育てる」ということを大切にしていきたい。

【意見交換】

(卜蔵) 米子市の社会教育のめざす方向性がみえない。もっと明確にしてもらえたら、社会教育委員も意見しやすくなる。生涯学習課主導で関係課と連携して、もっと進めてほしい。

(新見) 昨年度末から模索中で、まだこれという形が固まっていないのは確か。国や県の方針と、米子市まちづくりビジョン等、上位の指針を受けて進めていきたい。

③ 徳永哲郎委員

米子市同推協代表。G小で子どもたちや地域の人々とのふれあいを通して、進んで学ぶ雰囲気为学校から地域に広がり、最後の年に市内初の「男女混合名簿」が実現。その年は着任された教頭が県教委で社会教育を担当されていて、社会教育のこと意識することが増えた。この出会いも大きかった。

次の学校では保護者との人権学習会を始めた。学んだことをもとにした手作りの「人権劇」が始ま

り、学校行事や地域の学習会、他のPTAとの交流会等で見てもらった。今ではとても考えられないが、校長や教頭にも出演してもらい、保護者や地域に人権尊重の思いが広がる機会となった。

退職後は「恩送り」をモットーに、地区同推協の会長や登下校の見守り活動をしている。見守り活動を始めた頃は「変わり者」のような視線を感じたが、今では子どもたちも地域の方からあいさつや声掛けをもらうようになった。今年からゆるやかな組織になり、約30名が協力して下さっている。

最後に、昨年度まで境港市のCSコーディネーターだったが、今年度は境港市地域子育て支援センター「ひまわり」の指導員補助として、乳幼児や若い保護者と関わっている。職員のほとんどが女性だが、男女共同参画の観点からも「おじいさん」の役割は大きいと思っている。

【意見交換】

(星野)「恩送り」とはどういうことか？

(徳永) お世話になった恩を相手に「返す」のではなく、次の場所、次の世代に伝える、「送る」という意味。人権啓発のDVDにこの言葉があり、良い言葉だと思って使っている。

(ト蔵) 崎津地区の取り組みを紹介してほしい。

(徳永) これまで全く関わって来なかったので正直なところよくわからないが、夏休みのプレーパーク等大きな取り組みがある。

(ト蔵) 崎津地区は年間通していろいろな取り組みを計画的にしておられる。

④ 星野章作委員

何をすればよいか悩んでいる。県教委の「手引き」に「進んで施設をみるように」とあるので、まずはそこから思っている。かつては児童文化センターの設立に関わり、現在は地域の風揚げに関わっている。チルコムの方に大風を設計してもらい、揚げたいという思いが叶ったのがきっかけで、ボランティア活動に打ち込むようになった。

CSを通して石村隆男さんの「弓浜物語」という本に出会った。地域のよさを子ども向けに紹介されており、自分の中に「地域を知る」という軸がないことに気づいた。以前「彫刻シンポジウム」に関わっていたが、そういう軸があればよかった。「Well-being」はお互いにとってよいこと。「地域にとって良いこと」という思いで子どもたちに関わりたい。先日総合の学習で風揚げのことを話した際に「連風は小さい風が協力して大きく揚がる」ということを伝えた。学んだことを自分の中に留めておかず周囲に伝えることで、素晴らしいものにつながる。それが社会教育の役割ではないだろうか。

地域には歴史がある。歴史があつて今がある。米子市の方針を明確にすることは大切。自分も人権に長く関わって来た。離れたら終わるものだと思っていたが、もう一度燃え始めている。

【意見交換】

(ト蔵) チルコムは児童文化センター設立の母体。それをきっかけに協議会となった。そこでは一貫して「ものづくりの大切さ」を伝えてきた。悩みもあつたが「子どもが一番」と思いやってきた。

⑤ ト蔵久子委員

自分の子どもの保育園から高校までのPTAや子ども会育成会での活動をとおして仲間が増えた。米子市家庭教育支援チームを結成し、リーダーとして子育て親育ち講座を開催している。また、子どもが遊べる公園がわかるマップ（米子市とことこ公園マップ）を平成27年12月に発行した。今年、こども政策課のコーディネートで、米子市PTA連合会会長・前会長、明道小学校育成会長たちと意見交換を行った。最近、市内公園の遊具が新しく設置されていることもあり、再度調査し、とことこ公園マップの改定版発行を検討している。可能であれば、PTA連合会の2月役員会の議題にあげていただきたいと相談している。社会教育の家庭教育分野でとことこ公園マップを媒体にしてPTA連合会とつながることができれば、家庭教育のすそ野が広がる方向性を見出すことができそう

と感じている。

⑥ 生涯学習課 新見

元々米子市に貢献したいという想いで県外から戻ってきて、市役所に入った。偶然にも社会教育に携わることになり、これも何かの縁と感じ、社会教育担当者としてはもちろん、一プレイヤーとしても地域のために何かできたらと思っている。至る所で課題となっている担い手不足の問題、自分も幼児3人の子育て中で、正直地域活動への関与は思ったほどできていないが、おかげで子育て中の家庭は皆同様なのだとよくわかる。みなが「無理せず可能な範囲で」地域と関わりをもち、「楽しく」活動する中で新たな「つながり」をつくり、広げていくことが地域を盛り上げていくことにつながると考えている。その中で徳永委員や星野委員の話の中にも出てきた「同級生」の存在の大切さを感じている。また社会教育の分野で活躍されている方は、驚くほど広い人脈を持たれていることが共通している点。今日の話で各委員さんが広い人脈をお持ちだと再認識できたので、このつながりを最大限に活かすことが地域課題の解決につながるのではないかと。社会教育担当者としてはその有効な活かし方について、考えていきたい。

【意見交換】

(卜蔵) 新見さんは「二十歳を祝う会」担当。忙しい中新たな取り組みをされていることに感謝。

3 フリートーク

(加藤) 聞くだけの会は重苦しい。来年度、社会教育委員を増やすと言われたが、余計重苦しくなりそうだ。自分もいろいろなことに関わってきたが、「すごいことをされた」と声をかけてもらうとうれしかった。無意識でしていることが社会に伝わるのだと思った。委員を増やすなら、役割を明確にしなければならないのではないか。教育長は「出前授業で魅力を伝えたい」と言われた。例えば写真クラブを米子市全体でやってみてはどうか。福生東の大風も市全体に広げたらおもしろい。

(星野) 高専の先生と話した時、高専の生徒に風を作らせたかどうかと言ったことがある。文化を広げる意味でもよい。しかし日野川の河川敷は風が難しい。安来の干拓地はよいのだが、地元の思いと合致しない。

(加藤) 高専に限らずいろいろな方面と連携していけば、よい方向が見えてくるのではないかと。文化を大切にしていきたい。

(星野) 資金がなかったため、市に補助金を申請した。公民館20周年事業として取り組む案もあったが、それでは補助金交付の条件に引っかかるので、公民館は手を出さず「鍋」になった。その際、企業の「地域貢献」という事業に気づき、資金を出してもらえることになった。その他、賛同される方の寄付も頂くことができた。

(加藤) 行政と連携しないと長続きしないのではないかと。

(星野) まちづくりは地域の方で進めていくもの。公民館事業としての位置づけはしていく。

(卜蔵) 安部委員、春日地区の取り組みを紹介してほしい。

(安部) 以前子ども会長としてイルミネーションなどに取り組んでいたが、子ども会活動を積極的に継続していくことは難しい。そのため、OBが子ども会活動を応援するようにしている。(⇒恩送り) 他校区でも似たような形がある。

(加藤) 学校ボランティアで子どもたちとふれあっている。地域の文化を伝える場でもある。

(安部) 春日地区の育成協は、子どもと上の世代が一緒に活動する機会を大切にしている。

(徳永) 自分の住む地域には公園が三つあるが、ほとんど活用されていなかった。同居する孫が大きくなり、遊べるようにしてやりたいと思って、自宅に近い公園の除草や清掃をしたら、孫だけでなく近所の子どもたち、乳幼児を連れた保護者や祖父母が来るようになった。ギターを持った女子生徒

が来たこともあった。公園はまちづくりにとって非常に大切なものだと感じた。この公園は「松の木公園」と呼ばれている。できた当時は松の木がシンボルで、遊ぶ子どもたちが自然にそう呼ぶようになり、案内地図にもそう書かれるようになった。このような積み重ねが大切だと思う。ほかの二つは米子市が用いた「2号公園」「3号公園」がそのまま。これでは親しみが湧かない。

(卜蔵) 崎津地区は長年の積み重ねがある。人のつながりがまちづくりにつながっている。社会教育委員も今後つながって、しっかり意見を伝え合うことを大切にしていきたい。

(星野) まずは知り合うこと。そして社会教育の意味はそれぞれ活動を通してわかっているので、それを出し合うことが大切ではないか。

(卜蔵) できるだけ多い人数で話し合い、思いを合わせていきたい。今日は理解が深められた。

4 助言 戸板正哉さん(県教委社会教育課)

任期中、一貫したテーマで今回のような会を重ねていけば、よい提案ができるのではないか。委員が地域を回って知り合いの輪を広げていくことがよいのではないか。

文責：徳永哲郎委員